

毎年11月20日は伊勢志摩国立公園の日

世界水準のナショナルパークを目指す  
伊勢志摩国立公園

# 早春の便り



伊勢志摩  
国立公園の日  
vol.6

発行/(一財)伊勢志摩国立公園協会、三重県 編集協力/(有)伊勢文化舎 発行日/令和3年2月11日

第3回

## 石原円吉賞に3団体、特別賞に2名が輝く!

### NPO法人南勢テクテク会 島の旅社推進協議会 志摩半島野生動物研究会

令和2年11月19日、鳥羽市の鳥羽商工会議所会館3階かもめホールで、伊勢志摩国立公園指定日を記念した恒例イベントの「Happy Birthday! 伊勢志摩国立公園」が開かれました。この中から、第3回石原円吉賞表彰式や、同時開催の行事の模様をお伝えします。

円吉賞は今年度で3回目。南伊勢町の山々でハイキング会を開催しながら登山道の環境整備に努めているNPO法人南勢テクテク会、鳥羽市の離島住民らで観光ツアーの企画実施をしている島の旅社推進協議会、伊勢志摩を中心にアカウミガメの調査や産卵地の保護などに取り組んでいる志摩半島野生動物研究会の、3団体が暗れて受賞に輝きました。

特別賞は中馬氏と中瀬氏に  
特別賞には、伊勢志摩地域を中心に植物を調査している伊勢市中馬千鶴氏と、同市矢持町地区を中心に古

道を案内している中瀬誠氏の2人が選ばれました。表彰式には約50人が参加し、受賞者たちには、山本教和伊勢志摩国立公園協会会長から表彰状が贈られました。石原円吉賞は、伊勢志摩国立公園協会の主催。戦後初の国立公園指定実現に力を尽くした志摩出身の政治家石原円吉(1877~1973)の志にならって、同国立公園の地域文化の継承や発展、自然保護、景観向上などに努めた個人や団体を表彰しています。表彰式は、毎年伊勢志摩国立公園指定の日(11月20日)を祝って開催される恒例イベントの「Happy Birthday! 伊勢志摩国立公園」の環として実施されています。※受賞者の活動と喜びの声、関連行事は次ページから。



特別賞の中馬千鶴氏



特別賞の中瀬誠一氏



山本会長(写真左)、来賓者と受賞者との記念撮影



志摩半島野生動物研究会



島の旅社推進協議会



NPO法人 南勢テクテク会

講演・写真展・植樹式  
写真家・阪本博文氏が講演「祭りの長編小説」を紹介



作品をスクリーンに映しながら祭りの様子を話す阪本氏

阪本氏はローカル誌の取材などで30年以上にわたり伊勢志摩を撮り続けてきました。特別な瞬間や景色を追うよりも「そこに暮らす人々の視線」を追求してきたと述べ、地域に伝わる「祭り」の重要性に着目したと説明。ライフワークとして撮り続けてきた伊勢志摩各地の祭りの写真をスクリーン上で披露しました。志摩市立神地区

の「ひつぼろ神事」を、炎が立ち上る臨場感ある一枚と「祭りの長編小説」という言葉で紹介するなど、写真家ならではの表現力で出席者たちを惹き付けていました。一方で、「コロナ禍で祭りも自粛」と目下の課題に触れた場面も。少子高齢化などにより祭りの担い手不足が課題となっているのを背景に、「もともと伝統が危ぶまれていたが、1年の中断で継続が厳しくなるのでは」と述べました。その上で、「土地の人は熱い思いを持っているので、なんとかまた見たい」と語り、復活へ期待を示しました。

会場では、阪本氏と故松本高正氏による作品を集めた写真展も開かれました。阪本氏の作品は、当国立公園50周年記念事業(平成8年)で撮影した、神島のカルスト地形や五ヶ所湾のノリそだなど、自然の特徴や人々の暮らしが伝わる内容でした。松本氏は生前、モーターボラグライダーで空撮する「鳥



会場内で開かれた写真展

人として活躍し、今回も英虞湾を写した作品などが注目を集めていました。



植樹をする円吉賞・特別賞受賞者と山本会長(右)

講演と表彰式の後に、桜の記念植樹式が行われました。受賞者と一般参加者が、鳥羽市民の森公園で桜の苗木を植え、成長を祈りました。この植樹は、石原円吉が生前、当国立公園各所に桜の苗木を贈っていたことにちなんでいます。

### 鳥羽市民の森公園に桜を植樹

### 第4回石原円吉賞推薦 今年7月募集開始!

石原円吉賞は例年7月頃募集を開始し、伊勢志摩国立公園の指定日(11月20日)に合わせて表彰式を行います。伊勢志摩国立公園の最大の魅力は、人と自然の関わりを感じられるところであり、今後も同国立公園の保全や活用に取り組み、魅力ある地域づくりを行っている方々の活動にスポットを当てていきます。推薦の受付・表彰式については、詳細が決まり次第案内させていただきます。皆さまの推薦をお待ちしています。

〈候補者の推薦〉  
公募により行います。表彰の対象者は、長年、伊勢志摩国立公園の地域文化の継承や適正な活用の推進、動植物の保護などを行っている方やグループ・団体です。(若干名)推薦書は、伊勢志摩国立公園のホームページ(アドレスは左下)で入手できます。



石原円吉 いしはら・えんきち (1877~1973)  
英虞郡和具村(現在の志摩市志摩町和具)生まれ。家業のかたわら政界に進出し、日本の水産業発展を牽引。伊勢志摩の国立公園指定にも奔走した。伊勢志摩国立公園協会初代会長。海の博物館創設者、同初代館長。

News  
国立公園指定75周年  
記念特別展を海博で開催  
昭和21年の伊勢志摩国立公園指定から今年で75周年となるのを記念して、4月29日~8月29日の期間、鳥羽市立海の博物館で特別展「海風薫る伊勢志摩みやげ展(仮題)」(主催:海の博物館、共催:伊勢志摩国立公園協会)が開かれます。神宮が鎮座し、古くから来訪者を魅了してきた伊勢志摩。かつてその名物として知られたクジラやボラ、鰹節といった海産物の漁具や、明治以降に親しまれたパンフレットと絵はがき、真珠製品や貝

細工などを、同館特別展示室で披露します。  
◆海の写真コンテストも  
同じく記念事業として、「伊勢志摩国立公園フォトコンテスト」も予定しています。  
同コンテストの募集期間は春から夏を予定。課題は同国立公園の海岸風景や海の風俗となる予定で、詳細は後日発表されます。  
問い合わせ先  
鳥羽市立海の博物館  
TEL.0599-1321  
6006



昭和中期まで人気の土産物だった海女人形。

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況等により、イベントが変更となる場合があります。お出掛け前に改めてご確認ください。

第3回 石原円吉賞

受賞者の活動と喜びの声

Ishihara Enkichi Award
第3回石原円吉賞の受賞3団体と特別賞2名の、主な活動と受賞スピーチでのコメントをお伝えします。



南勢テクテク会主催による梵天山(南伊勢町)登山での記念撮影



南伊勢町の里山ハイキングと登山道の保全
NPO法人 南勢テクテク会

事前の安全確認で登りやすいと好評
ふるさとへの良さを再認識してほしい

平成9年に、旧南勢町の町民らを中心に結成。現在まで20余年間、南伊勢町内を中心にグループで山々を歩いて楽しみ、使われなくなっていた旧道の整備や保全、清掃に取り組みしてきました。月1回のハイキング会を恒例とし、南伊勢町から剣峠を越える伊勢神宮内宮方面



表彰状を持つ田畑会長(左)と久保さん

へのルート掘り起こしは、町民らを中心に結成。現在まで20余年間、南伊勢町内を中心にグループで山々を歩いて楽しみ、使われなくなっていた旧道の整備や保全、清掃に取り組みしてきました。月1回のハイキング会を恒例とし、南伊勢町から剣峠を越える伊勢神宮内宮方面



島の旅社推進協議会

スタッフは子育て中の30、40代の女性たちが活躍
地元愛にあふれたガイドを評価し応援

平成16年に鳥羽市の離島、答志島の住民たちで発足し、同島を中心に神島、菅島、坂手島でも地域密着の旅行商品を開発してきました。島民がガイドとなり、島の自然や歴史、文化を案内するエコツアアが好評。平成22年からは鳥羽市エコツーリズム推進協議会の委員として全体構想に基づく体験プログラムを実施し、無人島で干潟観察をする「浮島自然水族館」や、「路地裏散策」「海女小屋体験」などのメニューを展開。地元の高校生の研修や、大学の地域活動の支援も行い、人材育成、地域資源の発掘、情報発信等に総合的に取り組んできました。



スタッフらの活躍をアピールした濱口会長

組んできました。表彰式では濱口博会長が、「島の旅社は」鳥羽市からの提案で発足しましたが、町内会や漁協から役員を出してスタッフが地域で動きやすくしてきました。地元の旅館との連携もうまくいっています。スタッフは30代、40代の子育て中の女性たちが活躍中です」と説明していました。



「浮島自然水族館」の実施風景(鳥羽市答志島桃取地区)



沿岸生物の調査・保護活動を30余年
志摩半島野生動物研究会

アカウミガメの産卵は積極的保護が必要
伊勢志摩国立公園の自然を守る協力を

昭和63年から活動し、環境省や三重県と協働して伊勢志摩を中心に沿岸のウミガメやスナメリ、海鳥などを調査し、アカウミガメの上陸・産卵地の保護にも力を入れています。機関誌「三重の

生きものだよりの発行を通じて普及啓発も続けています。若林郁夫代表が、会場のスクリーンを使ってアカウミガメの産卵調査の様相を紹介しました。「アカウミガメは5〜8月に伊勢志摩の沿岸に上陸し、産卵します。私たちはその跡を回って(ふ化率を)数えています。著しく減少している状況で、積極



環境保護を訴えた若林代表

的な保護が必要です」と呼びかけました。また、外来植物の侵入や、野生動物の交通事故の問題、環境変化の影響を指摘し、「伊勢志摩の海岸にはすばらしい自然が残っています。賞を励みに自然を守るようがんばっていくので、皆様のご協力をお願いします」と述べていました。櫻井氏は、「スライドでお示しいただき、本当に貴重な活動をされていると深く感じました」と讃えました。



伊勢志摩の海辺での植物観察



植物研究家
中馬千鶴氏

照葉樹林の原点を求めてヒマラヤの麓へ
歩き続けて現役貫き「80歳、90歳も」

学生時から生物の研究に励み、伊勢市の皇學館高校

の生物教諭として勤めながら、約50年前から伊勢志摩地域の植物調査に取り組みしてきました。また、横山ピジターセンターの自然観察会の講師や、三重県自然観察指導員としても活動。生物研究の論文や、「伊勢志摩の海岸とその草木」、「伊勢志摩の草花100選」などの著書を発表しました。特別賞の表彰式で中馬氏



今後への意欲を語った中馬氏

は、伊勢志摩国立公園の特徴である照葉樹林の原点を求めてヒマラヤ山脈の麓を訪ねた思い出を語り、「毎日歩き続けて80歳でも90歳でも動ける体を作っていた」と今後への意欲を示しました。

櫻井氏は、「ヒマラヤの麓とこの地域とのグローバルな目線」に驚いていました。



平家の里語り部
中瀬誠一氏

50年の活動への賞に望外の喜び
「心のふるさと伊勢参宮」を追求する

伊勢市矢持町出身で約50年間、地元で伝わる平家伝説の語り部として活動。ゆかりのある久昌寺を拠点に伝記の講談をしています。また、竜ヶ崎を守る会会長

として矢持町から神宮宮城林を通って伊勢神宮内宮そばに出る伊勢古道を清掃整備し、毎年恒例の「平家の里エコツアア」(伊勢志摩国立公園協会主催)の案内役もしています。

中瀬氏は、「こんな賞をいただけるのは」と喜びを語り、五ヶ所から伊勢神宮への参拝ルートの復活の夢を語り、「心ふるさと伊勢参宮」



竜ヶ崎でのエコツアアの模様(左が中瀬氏)



受賞の喜びをスピーチする中瀬氏

中瀬氏は、「こんな賞をいただけるのは」と喜びを語り、五ヶ所から伊勢神宮への参拝ルートの復活の夢を語り、「心ふるさと伊勢参宮」

などの言葉に地域愛をにじませました。櫻井氏は学者の立場から、「地方と伊勢とを結ぶ街道が重要な役割を果たしていたこと、地域に誇りを持つ大切さを教わりました」と感銘を受けていました。